

水の文化 減災力



ミツカン水の文化センター

表紙上：夕張郡長沼町で活動する〈子ども水防団〉。濁った水の中でも安全を確保するために、膝丈の印をつけた棒で水深を探りながら歩く。まさに、自助を鍛える訓練だ。

表紙下：石巻の門脇地区に建つ本間家の土蔵。津波に耐えた土蔵の壁に、押し寄せた水の高さが記されている。次世代に経験を語り継ぐ、大切なモニュメントだ。

裏表紙上：総合治水対策を進める大和川では、水害だけでなく、地滑りとも闘ってきた。地滑りを誘発する地下水をうまく集めて排除するために、大掛かりな排水トンネルがつくられている。

裏表紙下右：日本で唯一の100%サラリーマン団員〈丸の内消防団〉。定住人口の少ない超都市圏での災害に備え、訓練を怠らない。

裏表紙下左：荒川・江戸川・東京湾に囲まれ、堤防が決壊すると区内のほぼ全域が水没すると予測されている江戸川区。区役所前の潮位計は、水害に備え、荒川の水位をリアルタイムで表示する。黄色のラインは1949年（昭和24）のキティ台風の最高潮位、オレンジ色のラインは1979年（昭和54）の台風20号の最高潮位、ピンク色のラインは1917年（大正6）の大津波、高潮の最高潮位を示し、水害の記憶を喚起する。



高橋 裕「治水哲学を涵養するもの」
 沖 大幹「気候変動が促す、個によるリスクマネジメント」
 真本雅之「XバンドMPレーダへの期待」
 原田憲一「自然災害と恵みの循環」
 谷口昭一「大和川の総合治水」
 古賀邦雄「わたしの里川 ― 里川の郷 東彼杵町」
 山本隆幸「リバーネット21ながぬまの取組み」
 亀山 絃「北上川を核として」
 石巻市復興事業部基盤整備課「市街地の復興計画」
 浅野 亨「北上川と親しむ暮らし」
 山田拓也「北上川下流河川事務所の取組み」
 本間英一「本間家の蔵が語る 3・11震災」
 坂本貴啓「Go! Go! 109水系 大河と共に北へ向かえ! 天塩川」
 古賀邦雄「水の文化書誌 戦後水害の変遷を辿る」

水の文化 November 2014 No. **48**

水の文化
2014
48

